

氏名	福岡悦子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3562 号
学位授与の日付	平成20年3月25日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Job Strain and Smoking Cessation among Japanese Male Employees: A Two-year Follow-up Study
(日本人の男性従業員の仕事のストレスと禁煙：2年後の経過観察)

論文審査委員 教授 荻野景規 教授 黒田重利 准教授 木浦勝行

学位論文内容の要旨

【目的】男性勤労者において職業性ストレスと禁煙の関連を前向き追跡調査により明らかにする。

【方法】岐阜県、製造業事業場の従業員 2,625 人を対象とし、基本調査（1997 年）は自記式調査票により、現在の喫煙状況、職業性ストレス（JCQ）、基本的要因を評価した。職業性ストレスの評価は①仕事のコントロール②仕事の要求度③上司の支援④同僚の支援⑤仕事の不安定さ⑥身体的負荷⑦常同姿勢負荷⑧仕事のストレインであった。2年後に追跡調査を行い喫煙状況の評価をした。統計解析は職業性ストレス尺度ごとに、禁煙率との関連性について、カイ二乗検定と多重ロジスティック回帰で分析した。

【結果と考察】年齢を調整した場合、身体的負荷が高いと禁煙する割合が低くなること示された(OR = 0.38, 95% CI = 0.15-0.94)。教育歴など他の変数も考慮した場合、有意な関連性はみられなかった。また、いずれの職業性ストレス尺度にも 2 年後の喫煙本数の変化との間に有意な関連性は示されなかった。

論文審査結果の要旨

男性勤労者において職業性ストレスと禁煙の関連を明らかにするために、岐阜県の製造業事業場の従業員 2,625 人を対象とし、基本調査として現在の喫煙状況、Job Content Questionnaire (JCQ)を用いた自記式調査票による職業性ストレス尺度（仕事のコントロール、仕事の要求度、上司の支援、同僚の支援、仕事の不安定さ、身体的負荷、常同姿勢負荷、仕事のストレイン（仕事の要求度/仕事のコントロール）、基本的要因を評価し、さらに2年後に追跡調査による喫煙状況の評価を行い、次のような結果を得た。

- 1) 年齢調整により、身体的負荷が高いと禁煙する割合が有意に低くなること示されたが(OR=0.38, 95% CI=0.15-0.94)、年齢に加え、教育歴など他の変数を調節した場合、有意性は認められなかった。
- 2) 年齢調節により、仕事のストレインが高いと禁煙する割合が低くなる傾向(P=0.054)が示されたが、他の変数を調節するとその傾向はなくなった。
- 3) 基本調査時と2年後の喫煙本数の変化は、いずれの職業性ストレス尺度とも有意な関連性はみとめられなかった。

以上より、本研究は、男性勤労者において、仕事のストレインは、禁煙や喫煙本数とはあまり関係なく、むしろ身体的負荷が禁煙に関与する重要な因子であることを示唆するものであり、労働衛生学的に価値ある業績と認められる。

よって、本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。